

**専門学校長野外語カレッジ
学校自己点検・自己評価報告書
(平成 27 年度)**

基準日：平成 28 年 3 月 31 日

平成 28 年 3 月

専門学校長野外語カレッジ

平成 27 年度 学校自己点検・自己評価報告書について

平成 19 年の学校教育法改正により専修学校における学校評価が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成する。

平成 27 年度の報告書においては、文部科学省が発行する「専修における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた検討会で議論を重ねた結果、以下の 3 つの観点から報告書を作成することにした。

基準Ⅰ：教育目標

基準Ⅱ：教育方法・内容

基準Ⅲ：学校運営

報告書を作成するにあたり学内に設けた検討会のメンバーは以下のとおりである。

平成 28 年 3 月

専門学校長野外语カレッジ

校長 志摩 浩一

事務局長・学校評価委員会委員長 若林 繁実

学校評価委員会

校長 志摩 浩一

委員長 若林 繁実（事務局長）

副委員長 沖 一彦（教務主任）

副委員長 李 明江（事務局主任）

百瀬 健二（グローバルビジネス学科長）

メスケンスともこ（国際コミュニケーション学科長）

岩本 阿由美（日本語学科長）

山崎 勉

山岸 理絵

城谷 啓美

早坂 緑

目次(点検・評価項目)

基準Ⅰ：教育目標	1
Ⅰ－１：具体的かつ明確な目標の設定	1
基準Ⅱ：教育方法・内容	3
Ⅱ－１：日本語学科の概要	3
Ⅱ－２：日本語学科の教育実績	4
日本語能力試験(JLPT)の受検者割合	4
日本語能力試験(JLPT)受検者の認定レベル分布	4
漢字圏受検者の認定レベル分布	4
非漢字圏受検者の認定レベル分布	4
平成27年度卒業生の認定状況	4
日本語学科学生の出席率(月別・平均)	5
文化体験等を通じた日本の伝統や習慣に対する理解	6
平成27年度日本語学科の取り組み状況に関する総評	6
Ⅱ－３：国際コミュニケーション学科の概要	7
Ⅱ－４：国際コミュニケーション学科の教育実績	9
【国際コミュニケーション学科(日本語教育コース：日本語教師養成クラス)】	
日本語教師養成クラスの就職率	9
就職先一覧	9
【国際コミュニケーション学科(日本語教育コース：日本語・情報クラス)】	
日本語能力試験(JLPT)の受検者割合	
日本語能力試験(JLPT)の受検者割合	9
日本語能力試験(JLPT)受検者の認定レベル分布	9
漢字圏受検者の認定レベル分布	9
非漢字圏受検者の認定レベル分布	9
平成27年度卒業生の認定状況	9
マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)の受検者割合	10
マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)受検者の合格状況	10
課外活動等を通じた「異文化調整能力」「問題解決能力」	
「課題達成能力」の習得	11
日本語・情報クラスの就職・進学率	11
就職・進学先一覧	11

	【国際コミュニケーション学科(英語キャリアコース：英語・情報クラス)】	
	英語検定または TOEIC の受検者割合	1 2
	英検受検者の認定レベル分布	1 2
	TOEIC 受検者のスコア分布	1 2
	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)の受検者割合	1 2
	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)受検者の合格状況	1 2
	留学状況	1 3
	課外活動等を通じた「異文化調整能力」「問題解決能力」	
	「課題達成能力」の習得	1 3
	英語・情報クラスの就職・進学率	1 4
	就職・進学先一覧	1 4
	【国際コミュニケーション学科(英語中国語コース：英語・中国語クラス)】	
	TOEIC 及び中国語検定(HSK)の受検者割合	1 5
	TOEIC 受検者のスコア分布	1 5
	中国語検定(HSK)受検者の認定レベル分布	1 5
	留学状況	1 6
	課外活動等を通じた「異文化調整能力」「問題解決能力」	
	「課題達成能力」の習得	1 6
	英語・中国語クラスの就職・進学率	1 6
	就職・進学先一覧	1 6
	平成 27 年度国際コミュニケーション学科の取り組み状況に関する総評	1 7
Ⅱ-5	グローバルビジネス学科の概要	1 8
Ⅱ-6	グローバルビジネス学科の教育実績	1 9
	【グローバルビジネス学科(海外ディプロマクラス)】	
	海外ディプロマクラスの状況	1 9
	【グローバルビジネス学科(グローバル経営クラス)】	
	グローバル経営クラスの状況	1 9
	TOEIC の受検者割合	2 0
	TOEIC の受検者のスコア分布	2 0
	JLPT の受検者割合	2 0
	JLPT の受検者のスコア分布	2 0
	課外活動等を通じた「実践的英語力」「異文化理解・コミュニケーション力」	
	「経営感覚(起業家精神)」の習得	2 1
	平成 27 年度グローバルビジネス学科の取り組み状況に関する総評	2 2

基準Ⅲ：学校運営	23
Ⅲ－1：コンプライアンスの遵守	23
Ⅲ－2：業界・地域社会との連携	23
Ⅲ－3：学生アンケートの実施状況と結果を受けた取り組み	23
＜学生アンケートの実施状況＞	23
＜学生アンケートの集計結果＞	24
＜結果の分析＞	26
＜結果を受けた取り組み＞	26
Ⅲ－4：教職員研修の実施状況	26
Ⅲ－5：四半期毎の学費徴収率	27
Ⅲ－6：学習環境の整備	27
Ⅲ－7：学生生活への支援	27
平成28年度に向けた取り組みの方向性	28
基準Ⅰ：教育目標について	28
基準Ⅱ：教育方法・内容について	28
基準Ⅲ：学校運営について	28
専門学校長野外语カレッジ自己点検・自己評価実施要綱	29
専門学校長野外语カレッジの自己点検・自己評価の実施について	30

基準Ⅰ：教育目標

- ・国際理解を深め、グローバルに活躍できる人材を育成する
- ・コミュニケーション能力・創造力・経営マインドを育成する
- ・社会のニーズに応える資格取得を目指し、即戦力となる社会人としての人間力を育成する

Ⅰ－１：具体的かつ明確な目標の設定

平成27年度の教育目標は、学科・コース・クラス別に以下のとおり設定した

【日本語学科】

- ・日本語学科に在籍する学生は、原則全員が日本語能力試験(JLPT)を受検することとし、卒業時までには漢字圏から来た学生はN2／非漢字圏から来た学生はN3以上の認定を目指す
- ・出席率は各月・年間を通じて90%以上を維持する
- ・文化体験を通じて日本の伝統や習慣を理解する

【国際コミュニケーション学科(日本語教育コース)】

日本語教師養成クラス

- ・日本語教育機関への就職を目指す

日本語・情報クラス

- ・日本語・情報クラスに在籍する学生は、原則全員が日本語能力試験(JLPT)を受検することとし、卒業時までには漢字圏から来た学生はN1／非漢字圏から来た学生はN2以上の認定を目指す
- ・日本語・情報クラスに在籍する学生は、積極的にマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)を受検することとし、卒業時までには「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」の4つの区分のうち3つ以上を各自のレベルに応じて取得することを目指す
- ・授業や課外活動を通じて「異文化調整能力」「問題解決能力」「課題達成能力」を身に付ける

【国際コミュニケーション学科(英語キャリアコース)】

英語・情報クラス

- ・英語・情報クラスに在籍する学生は、原則全員が英検またはTOEICを受検することとし、卒業時までには英検準一級またはTOEIC750点以上の取得を目指す
- ・英語・情報クラスに在籍する学生は、積極的にマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)を受検することとし、卒業時までには「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」の4つの区分のうち3つ以上を各自のレベルに応じて取得することを目指す

- ・ 留学の機会を積極的に活用し、英語でビジネスができる人材を目指す
- ・ 授業や課外活動を通じて「異文化調整能力」「問題解決能力」「課題達成能力」を身に付ける

【国際コミュニケーション学科(英語・中国語コース)】

英語・中国語クラス

- ・ 英語・中国語クラスに在籍する学生は、原則全員が TOEIC と中国語検定 (HSK) を受検することとし、卒業時までに TOEIC500 点と HSK4 級以上の取得を目指す
- ・ 「2+2プログラム」等の留学の機会を積極的に活用し、英語と中国語を通じた国際感覚を身に付ける
- ・ 授業や課外活動を通じて「異文化調整能力」「問題解決能力」「課題達成能力」を身に付ける

【グローバルビジネス学科 (海外ディプロマクラス) (グローバル経営クラス)】

- ・ 海外ディプロマクラス・グローバル経営クラスに在籍する学生は原則全員 TOEIC を受検し、卒業までに 750 点以上の取得を目指す
- ・ 海外ディプロマクラスに在籍する学生は原則全員が IELTS を受検し、1 年次修了までに 5.5 以上の取得を目指す
- ・ 授業や課外活動を通じて「実践的英語力」「異文化理解・コミュニケーション力」「経営感覚 (起業家精神)」を身に付ける

【学校運営】

- ・ コンプライアンスを遵守し、業界・地域社会との連携を深める
- ・ 学生の意見を反映させて継続的な学習環境の向上に努める
- ・ 常勤・非常勤ともに自己の能力の向上と互いの連携強化に努める
- ・ 健全な財務基盤の上に将来を見据えた教育環境整備をおこなう
- ・ 学生生活の実態把握に努めるとともに個人情報適切な管理体制を構築する

基準Ⅱ：教育方法・内容

Ⅱ－２：日本語学科の概要

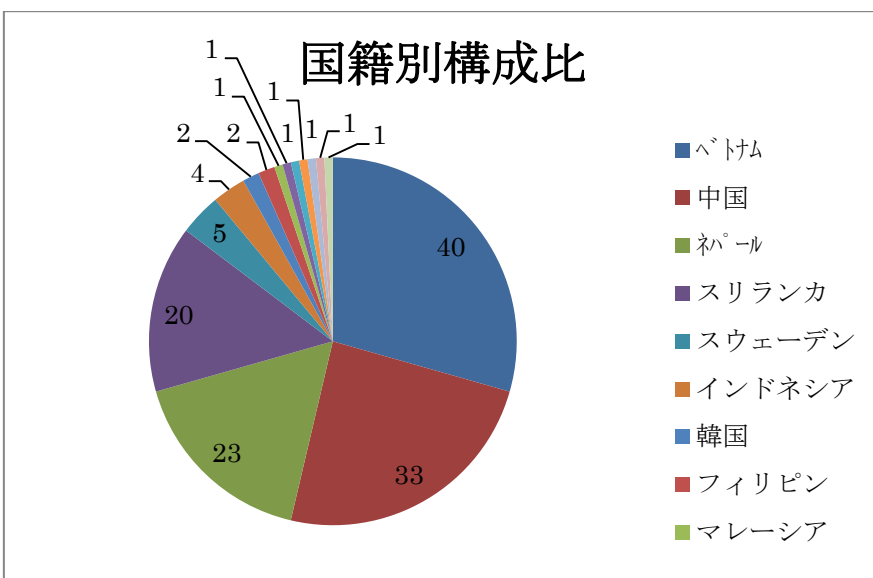
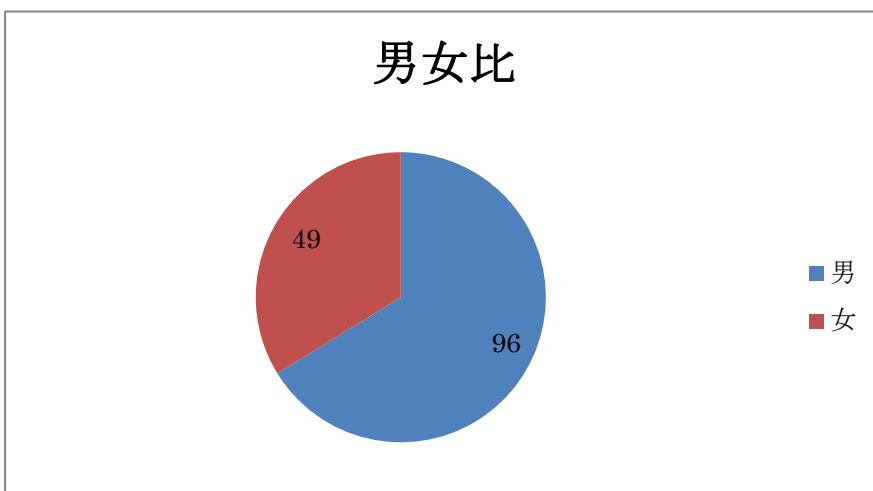
平成 27 年度日本語学科の概要は以下のとおり。

在籍人数 : 145

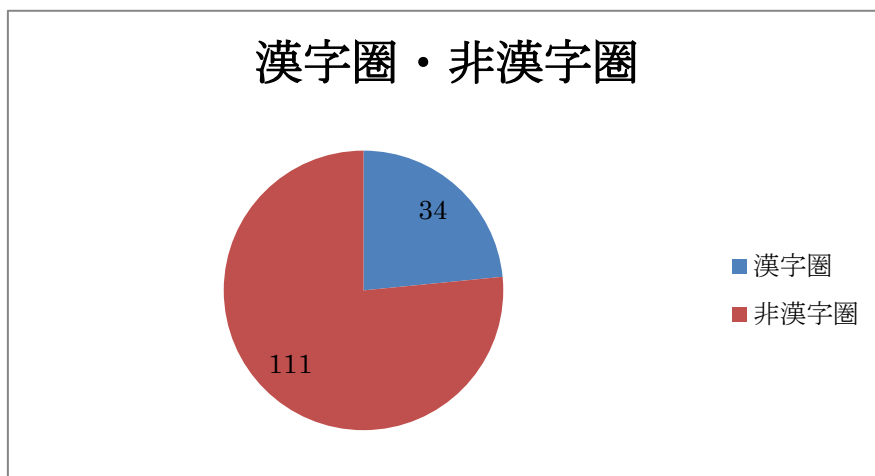
クラス数 : 8

男女比 : 96 : 49

国籍別構成比 : ベトナム : 40 ネパール : 23 中国 : 33 タイ : 9 スリランカ : 20
インドネシア : 4 スウェーデン : 5 韓国 : 2 フィリピン : 2
マレーシア : 1 スペイン : 1 台湾 : 1 パキスタン : 1
ロシア : 1 メキシコ : 1 カナダ : 1



漢字圏：非漢字圏：34:111



Ⅱ－２：日本語学科の教育実績

日本語能力試験 (JLPT) の受検者割合

※ 平成 27 年度日本語能力試験 (JLPT) 受検者数／日本語学科在籍人数

日本語能力試験 (JLPT) 受検者の認定レベル分布

N5	N4	N3	N2	N1
1 名	4 名	17 名	6 名	2 名

漢字圏受検者の認定レベル分布

N5	N4	N3	N2	N1
0 名	0 名	4 名	4 名	2 名

非漢字圏受検者の認定レベル分布

N5	N4	N3	N2	N1
1 名	4 名	13 名	2 名	0 名

平成 27 年度卒業生の認定状況

漢字圏 (N2 以上／在籍人数)	非漢字圏 (N3 以上／在籍人数)
64.2% (対前年比： 413%)	23.7% (対前年比： 152%)

点検・評価

昨年度に引き続き、漢字圏の学生は全体の一割程度である。

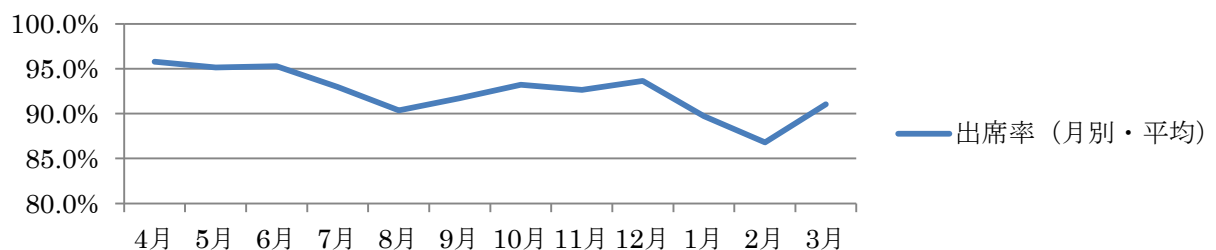
大学進学を志望する学生が少ないため N1 受験者は 3 名しかいなかったが、N3、N2 についてもモチベーションを高める観点から資格取得の必要性を助言した。さらに学校で一括して受検のネット申し込みを始めたこともあり受検者が増える傾向にある。

また、非漢字圏の学生の授業進度が遅れ気味で、学習の到達度が N3 レベルに達していない場合があるという問題点を改善するため、カリキュラムの見直しを行っているところである。

日本語学科学生の出席率(月別・平均)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
95.8%	95.2%	95.3%	93.0%	90.4%	91.7%	93.2%	92.6%	93.6%	89.7%	86.8%	91.0%

出席率 (月別・平均)



点検・評価

年明けに進学先等が決まった学生、特に県外への進学の場合、引越しの準備などで出席率が低下する傾向が見られた。また同じ時期にインフルエンザなど体調を崩す学生も多く見受けられた。

出席率が受験やビザ延長に影響することを折に触れ指導・助言しているが、経済的に苦しい学生に学業とアルバイトの両立に課題があり、出席率が下がってしまうケースが多いので、更なる生活面からのサポートが必要となっている。

文化体験等を通じた日本の伝統や習慣に対する理解

<年間の主な行事>

- 4月 : 入学式・新入生歓迎会, お花見
- 5月 : 体育祭
- 8月 : バス旅行 (ディズニーシー・富士急ハイランド)
- 9月 : 日本文化 (茶道・日本料理「たこ焼き」) 体験
- 10月 : 文化祭
- 12月 : 冬フェス (日本の祭り文化・縁日体験)
(綿菓子、射的、スーパーボールすくい、ポップコーン等)
- 1月 : 書き初め
- 3月 : 卒業式

点検・評価

バス旅行についてはバス代が値上がりしたことによって、予算内で実施することにはかなり無理があったが、他の文化体験を圧縮することでなんとか実施することができた。天候には恵まれなかったが、クラスメイトと友好を深め、日本のサービス業におけるホスピタリティーを学ぶ大変良い機会となった。

日本語学科の行事に関しては、ややもすると教師側がすべて企画立案をして、学生たちはそれに従うという傾向が見られた。中でも学園祭は JLPT を目前にした時期ということもあり、それほど時間は取れないという実情もあったが、今後学生たちの主体性を育むためにも学校行事や学園祭を大切に位置付けていきたい。

平成 27 年度日本語学科の取り組み状況に関する総評

ポートフォリオ評価、1 分間スピーチ、ホームルームの導入など新たな試みを取り入れ、学生の自立学習、会話力の向上、生活面の改善に取り組んだ。

導入 1 年目ではあるが、毎日のスピーチにより、人前で話すことに対するハードルが下がり、積極的に話す学生が多くなってきている。また、スピーチで自分自身のことを話すため、クラスメイトのことをお互いによく知ることになり、クラスの連帯感にもつながってきている。

1 年目から進学のスケジュールについて説明し、進学への準備として JLPT, EJU の受験を促す指導をしている。しかしながら大学受験を考えている非漢字圏の学生はまだ少なく、EJU の受験者はなかなか伸びない。一方、JLPT の受験者については、意識が高くなってきており、増加傾向にある。

Ⅱ-3：国際コミュニケーション学科の概要

平成 27 年度国際コミュニケーション学科の概要は以下のとおり

在籍人数 : 113名

日本語教育コース :

(日本語教師養成クラス : 2名/日本語・情報クラス : 82名/大学編入クラス対象 : 0名)

英語キャリアコース :

(英語・情報クラス : 28名/大学編入クラス対象 : 0名)

英語中国語コース :

(英語・中国語クラス : 1名/大学編入クラス対象 : 0名)

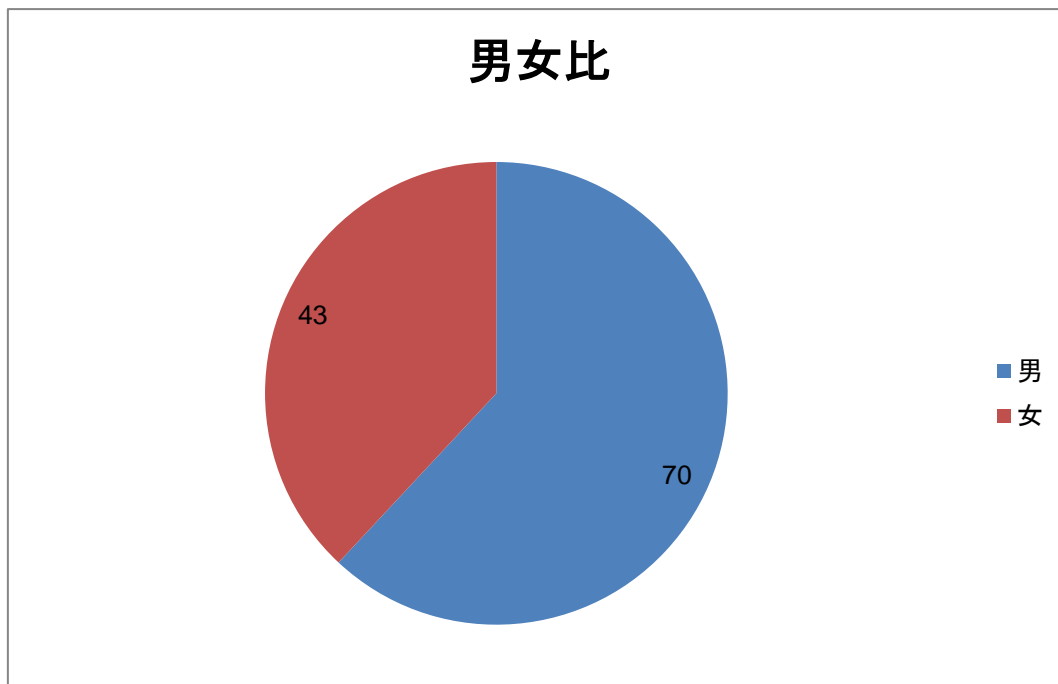
男女比 : 70 : 43

国籍別構成比 : ベトナム : 63 ネパール : 18 日本 : 14 中国 : 7

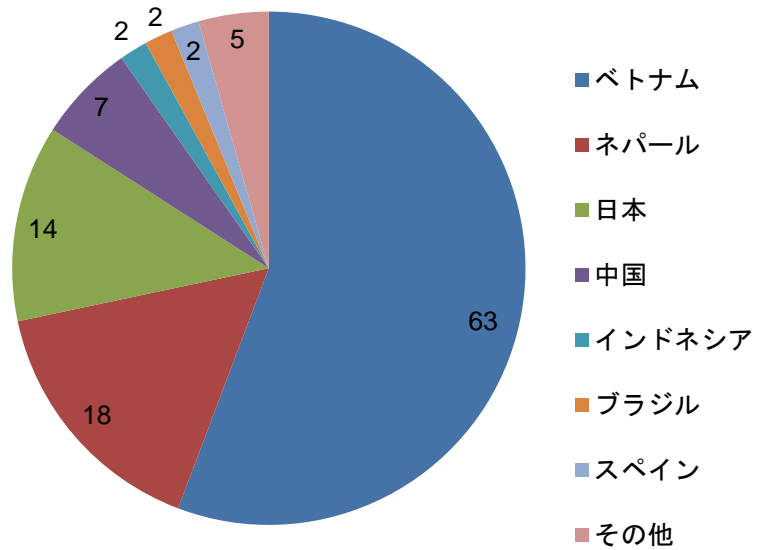
インドネシア : 2 スペイン : 2 ブラジル : 2 タイ : 1

スリランカ : 1 フィリピン : 1 パラグアイ : 1 ペルー : 1

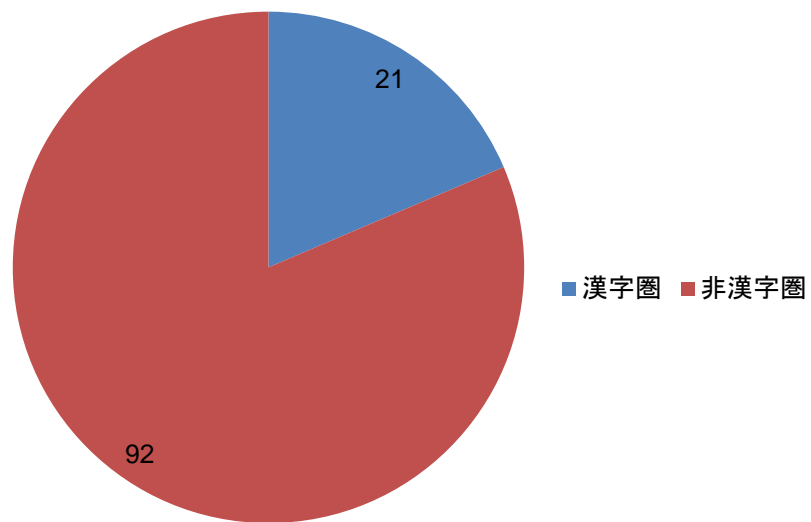
漢字圏 : 非漢字圏 21 : 92



国籍別構成比



漢字圏・非漢字圏比率



Ⅱ－４：国際コミュニケーション学科の教育実績

【国際コミュニケーション学科(日本語教育コース：日本語教師養成クラス)】

日本語教師養成クラスの就職率

※ 平成 27 年度卒業生の就職者数／平成 27 年度卒業生の就職希望者数

平成 27 年度日本語教師養成クラスの卒業生：1 名

【国際コミュニケーション学科(日本語教育コース：日本語・情報クラス)】

日本語能力試験(JLPT)の受検者割合

※ 平成 27 年度日本語能力試験(JLPT)受検者数／国際コミュニケーション学科日本語情報
在籍人数

54% (45名 / 82名)

日本語能力試験(JLPT)受検者の認定レベル分布

N5	N4	N3	N2	N1
0 名	0 名	3 名	7 名	3 名

漢字圏受検者の認定レベル分布

N5	N4	N3	N2	N1
0 名	0 名	0 名	0 名	1 名

非漢字圏受検者の認定レベル分布

N5	N4	N3	N2	N1
0 名	0 名	3 名	7 名	2 名

平成 27 年度卒業生の認定状況

漢字圏 (N1 以上／在籍人数)	非漢字圏 (N2 以上／在籍人数)
0% (前年度： 3.2%)	7.3% (前年度： 4.8%)

点検・評価

日本語能力試験は7月と12月の年2回実施されているが、その両方に挑戦した意欲的な学生も多数出てきている。

非漢字圏の学生が積極的にN2、N1を受検し、結果を出してきている。1年生の受検者も多く、2年次での更なる飛躍が期待できるので、本資格取得者が就職や進学を有利にさせることも併せて助言していきたい。

マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)受検者の合格状況

Word	Excel	PowerPoint	Access
0名	0名	0名	0名

点検・評価

資格対策のための学習はしていたものの、日本語レベルが受検レベルには到達できていなかったため、受検者は0となってしまった。

特に留学生については日本語能力の定着に努めて指導していきたい。

課外活動等を通じた「異文化調整能力」「問題解決能力」「課題達成能力」の習得

<年間の主な行事>

- 4月 : お花見
- 5月 : 体育祭
- 6月 : 課外研修（宿泊研修）
- 9月 : 高校交流会
- 11月 : 学園祭 学生旅行（金沢）
- 2月 : 課外活動（スケート）
- 3月 : 卒業発表

点検・評価

<異文化調整能力>

日々の学習でのグループワークや、課外活動での集団生活を通じて、お互いを尊重し合いながら、意見やアイデアを交換することができた。11月の学園祭では、リーダーを中心にクラスごとの出し物を完成させた。このことは体験を通じて異文化を実感する良い機会となった。

<問題解決能力>

学生たちは日々の生活の中から身近にある具体的な問題を取り上げ、ディスカッションを重ねてきた。問題が起こったときにどうするかだけでなく、どうしたらそのことを未然に防ぐことができるのかについてまで議論を深められるようになった。

<課題達成能力>

期限や決まった中での発表の準備や、プレゼンテーションの内容と手順、社会生活の中で重要視される時間の厳守など、各自が要求される課題に向き合うことができた。大きな課題であっても、一步一步を着実にこなしていく姿勢を身につけてきた。

日本語・情報クラスの就職・進学率

※ 平成27年度卒業生の就職・進学者数／平成27年度卒業生の就職・進学希望者数

58% (20名 / 34名)

就職・進学先一覧

株式会社イングリッシュ・エル・スクール オルガン針株式会社・未来化成・共同組合F
UJI 蓼科グランドホテル滝の湯 株式会社紀伊国屋 株式会社ニックホーム 株式
会社佳元 野原貿易
中京学院大学 日本経済大学 関東学園大学

【国際コミュニケーション学科(英語キャリアコース：英語・情報クラス)】

英語検定または TOEIC の受検者割合

※ 平成 27 年度英検または TOEIC の受検者数／英語・情報 クラス在籍人数

78% (11 名 / 14 名)

英検受検者の認定レベル分布

5 級	4 級	3 級	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級
0 名	0 名	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名

TOEIC 受検者のスコア分布

～400 点未満	～500 点未満	～600 点未満	～750 点未満	～800 点未満	800 点以上
4 名	3 名	0 名	3 名	1 名	0 名

マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)の受検者割合

※ 平成 27 年度 MOS 受検者数(4 区分のうち 1 つ以上)／英語情報クラス在籍人数

マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)受検者の合格状況

Word	Excel	PowerPoint	Access
1 名	1 名	1 名	0 名

点検・評価

1 年生のパソコン資格取得は、スキルを高めている最中であるために資格試験に挑む学生が少なく、2 年生の卒業前になって資格を取得する学生が多い。 TOEIC の受検に関しては学校内で年に 2 回実施できるようにしたことで受検する学生が増えてきており、複数回受検できる機会となっている。このことで受検率が上がっており更なる点数上昇が見込まれる。

留学状況

<短期留学(6ヵ月未満)>

留学者数： 1名

留学先： カナダ

<長期留学(6ヵ月以上)>

留学者数： 0名

留学先： なし

点検・評価

在学中の長期休みを利用して短期留学を希望する学生は多い。しかし現実に短期留学をした学生は1名であった。欧米諸国だけではなく近隣のアジアでも短期集中による英語学習が可能であるので、2年次の長期休みに短期留学を希望する学生もいる。

課外活動等を通じた「異文化調整能力」「問題解決能力」「課題達成能力」の習得

<年間の主な行事>

4月： お花見

5月： 体育祭

6月： 課外研修（宿泊研修）

10月： ハロウィン仮装大会

11月： サンクスギビングデー 学園祭 学生旅行（金沢）

12月： クリスマスパティー

2月： 課外活動（スケート）

3月： 卒業発表

点検・評価

＜異文化調整能力＞

日本人学生と留学生が同一クラスで学べるという特色があり、日常にお互いの文化を学びあうことが行われた。また、英語学習の一環として英語圏の文化への造詣を深め、文化背景を理解したうえでお祭りを楽しむことができた。内容的にも表面的な理解で終わることなく、異文化を受容していく姿勢を身につけていきたい。

＜問題解決能力＞

与えられる課題に対して、解決策を考え実行していくために必要な分析力、まとめあげる力を養っていった。度重なるグループワークを通じて、各自が、問題解決を適切に進めるにあたり、これから高める必要があるスキルを自分で発見することができた。

＜課題達成能力＞

日本人、留学生ともに全員が母国語ではない英語で意思疎通しリーダーシップを発揮することを目標としているが、能力の差が生じている。しかしコミュニケーションに優れた学生が他の者に対し、調整する能力を発揮することを期待するとともに、クラス全体でよりよい学習機会をつくりあげ、一丸となって課題の達成過程をも楽しめるように指導していきたい。

※ 平成 27 年度卒業生の就職・進学者数／平成 27 年度卒業生の就職・進学希望者数

60% (3名 / 5名)

就職・進学先一覧

株式会社ミズケン 株式会社アローズ 名古屋経済大学

【国際コミュニケーション学科(英語中国語コース：英語・中国語クラス)】

TOEIC 及び中国語検定 (HSK) の受検者割合

※ 平成 27 年度 TOEIC、英検、HSK の受検者数／英語・中国語クラス在籍

100% (1名 / 1名)

TOEIC 受検者のスコア分布

～400 点未満	～500 点未満	～600 点未満	～750 点未満	～800 点未満	800 点以上
0 名	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名

英検受検者の認定レベル分布

5 級	4 級	3 級	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級
0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名

中国語検定 (HSK) 受検者の認定レベル分布

1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

点検・評価

英語系の資格の実施回数のほうが比較的多いので、今年は、そちらを重点的に行っていた。来年からは、HSKが当校で受検できるため、HSK取得率の向上が見込まれる。

留学状況

＜短期留学(6ヵ月未満)＞

留学者数： 0名

点検・評価

1年次は中国語レベルがゼロからの学習者が多く、修得レベルを考えるとまだまだ自信が持てない様子がうかがえる。中国への短期留学を十分に生かす語学力がつく2年次に留学を希望している学生が多い。

また、27年度、卒業後に中国の提携大学の3年次編入をした学生もおり、今後この学生からの体験談を話してもらう機会を設け留学意欲を向上させていく活動も計画している。

課外活動等を通じた「異文化調整能力」「問題解決能力」「課題達成能力」の習得

＜年間の主な行事＞

- 4月 : お花見
- 5月 : 体育祭
- 6月 : 課外研修（宿泊研修）
- 10月 : ハロウィン仮装大会
- 11月 : 学園祭 学生旅行（金沢）
- 12月 : クリスマスパティー
- 2月 : 春節 課外活動（スケート）
- 3月 : 卒業発表

点検・評価

＜異文化調整能力＞

英語圏・中国語圏の文化に日々親しむことにより、様々な物の考え方、楽しみ方を学んだ。他コースにはそれぞれの文化圏からの留学生も多いため、コースを跨いだ交流を通じ、実際の文化に触れることができた。多様性を認めると同時に、自国の文化について積極的に発信する機会を得たて、それぞれが成長したことを感じ取れる1年であった。

＜問題解決能力＞

感情にとらわれずに、問題の所在を発見することができた。問題の解決に必要な分析力や異分野の理解力を身につけることができたため、今後はデバートなどを通じ自己表現力を磨いていくことが望まれる。

＜課題達成能力＞

英語と中国語を並行してマルチリンガルを目指すクラスであるため、どの言語も高い専門領域まで達成する必要がある。資格試験等を通じ、学生自らが自分で現在の課題を考え、語学力の強化を図ることができた。

平成 27 年度国際コミュニケーション学科の取り組み状況に関する総評

国籍が異なる学生がチームとなり、課題をこなしていくタスクを授業に取り入れたことで、学園祭や課外活動などの集団行動が必要とされる場ではきちんと意思疎通を図り、一丸となって取り組みまとまった活動ができた。

また、学生それぞれに自分の語学力から具体的に課題を明確化し、語学力の習得に励ませることができた。資格試験に関しては、模試や補講を受けられる機会や場所の提供など、学校側としても学生の意欲向上に努めた。

将来の就職ビジョンを明確化するために、学内に設置されたキャリアサポートセンターが、絶えず学生に情報を発信し適切な助言をしてきた。その結果として多数の学生が希望に沿う就職をすることができ、一学年の学生にとっても指針となる先輩をたくさん輩出することができた。

今後も学生の個々の特性とニーズを把握していく中で、企業との連携を模索し、求人情報の提供のみならず、生きた学習の場としての学校の機能を果たしていきたい。

Ⅱ-5 : グローバルビジネス学科の概要

平成 27 年度グローバル学科の概要は以下のとおり

在籍人数 : 14名

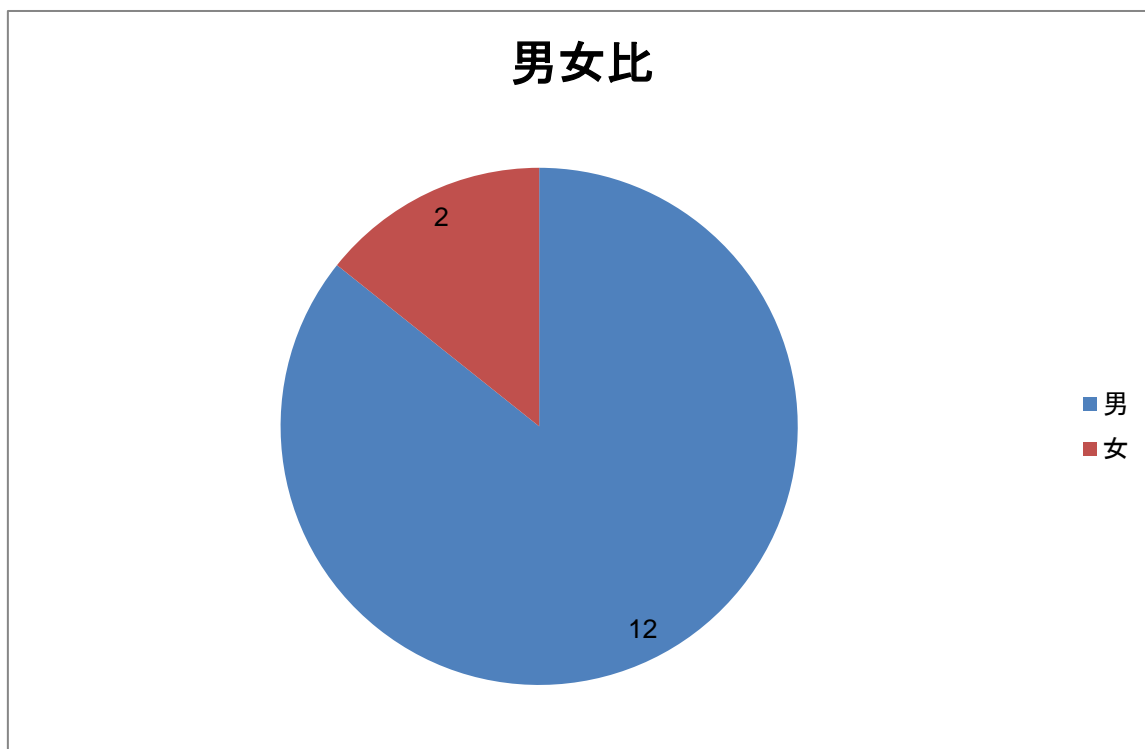
海外ディプロマクラス : 0名

グローバル経営クラス : 14名

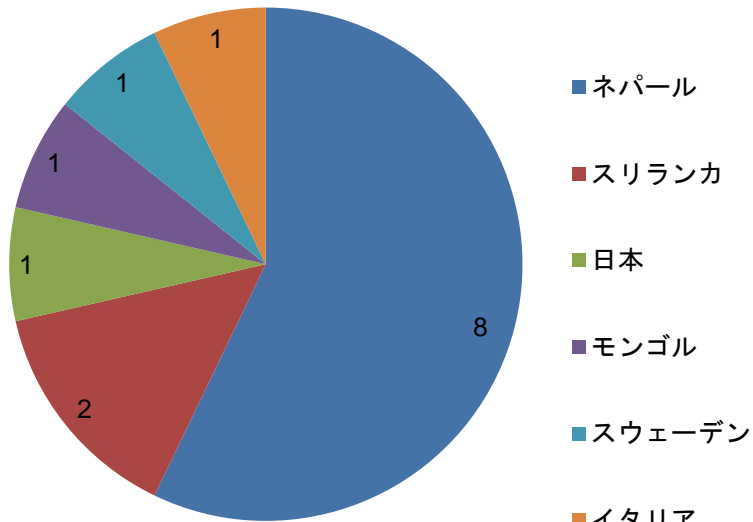
男女比 : 12 : 2

国籍別構成比 : ネパール : 8 スリランカ : 2 日本 : 1 モンゴル : 1

スウェーデン : 1 イタリア : 1



国籍別構成比



Ⅱ－6：グローバルビジネス学科の教育実績

【グローバルビジネス学科(海外ディプロマクラス)】

海外ディプロマクラスの状況

平成 27 年度海外ディプロマクラスの卒業生：0 名

(平成 27 年度新設につき 1 年生のみ在籍)

※1 学年在籍者：0 名

【グローバルビジネス学科(グローバル経営クラス)】

グローバル経営クラスの状況

平成 27 年度グローバル経営クラスの卒業生：0 名

(平成 27 年度新設につき 1 年生のみ在籍)

※1 学年在籍者：14 名

TOEICの受検者割合

※ 平成 27 年度英検または TOEIC の受検者数／グローバル経営クラス在籍人数
14% (2名 / 14名)

英検 2 級

1 名合格

TOEIC 受検者のスコア分布

～400 点未満	～500 点未満	～600 点未満	～750 点未満	～800 点未満	800 点以上
0 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名

JLPT の受検者割合

※ 平成 27 年度日本語能力試験 (JLPT) 受検者数／グローバル経営クラス対象在籍人数
(日本人を除く)

8% (1 名 / 13 名)

JLPT 受検者の認定レベル分布

1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

点検・評価

グローバル経営クラスに在籍するのは 1 年生のみであったが、英検・TOEIC、JLPT とも受験率が低かった。JLPT は、N2 を受験した学生が 1 名いたが 4 点足りずに不合格であった。

ビジネス、経営、英語に特化したカリキュラムを展開しているが留学生の在籍も多く、資格取得という観念がまだまだ定着していないが、その必要性和メリットについて更に指導・助言をしていきたい。

また、IELTS の受検者は海外ディプロマクラス対象となるため、今年度はいない。来年度に向けてこちらの受験対策も進めていく予定である。

課外活動等を通じた「実践的英語力」「異文化理解・コミュニケーション力」「経営感覚（起業家精神）」の習得

<年間の主な行事>

- 4月 : お花見
- 5月 : 体育祭
- 6月 : 課外研修（武石宿泊研修）
- 11月 : 学園祭
- 3月 : キャリアガイダンス

点検・評価

<実践的英語力>

11月のNLC祭では、国別・クラス別の発表を行った。国別発表では、各国の学生がそれぞれ集まりダンスをしたり、国の歌や踊り、民俗衣装を披露したりとそれぞれの国の文化を理解する、素晴らしい場となった。また、クラス発表では、英語劇による『桃太郎』を上演し、会場の聴衆から拍手喝さいを浴びクラス全員の結束力を示すことができた。

<異文化理解・コミュニケーション力>

キャリアガイダンスでは、留学生のみならず日本人学生も含め、就職活動を始めのうえでの心構えや取り組み方などを学習し、後日、就職活動の要点等について話し合いの学習をまとめた。

<経営感覚（起業家精神）>

4月のお花見の際、上田城跡公園には多くの露店が出店していたが、学生たちはどういうものをどれくらい、いくらで販売したら利益を得ることができるかをそれぞれ考えていた。自分が購入する立場であれば、何を基準に購入する品物を決定するかを相手の立場になって考えることの重要性を身をもって体験した。

平成 27 年度グローバルビジネス学科の取り組み状況に関する総評

一年生を迎えた最初の年であったため、国際コミュニケーション学科の実践をモデルとして運営してきたが一年間試行錯誤の連続であった。課外活動は、同学科に便乗して行動を共にしたので、学科独自の学習活動を展開をすることが少なかった。しかし、学生にはグローバルビジネス学科の学生らしく、マネジメントの視点から物事を見るよう指導をしてきたので、校外活動における花見の露天商の経営に目が向いたのだと思われる。

NLC 祭では、クラス全員が参加し『桃太郎』を演じたが、母語が違う学生が共通語である日本語と英語を駆使して意思疎通を図り、全員で劇を作り上げ素晴らしい演劇を上演することができた。クラス全員の気持ちが一つにまとまった瞬間を会場にいる学生たち全員で感じることもできた。

各種資格検定の受検を更に促進していく中で、資格取得の意味を十分理解させていきたい。

基準Ⅲ：学校運営

Ⅲ－１：コンプライアンスの遵守

平成 27 年度から商業実務専門課程グローバルビジネス学科がスタートし、学校教育法に遵守した教員配置、教室、施設、設備、図書を揃えて、授業展開を行った。

夏休みに校舎の改修を行うとともに、校地の境界を明確化した。新たに消防法に適合した誘導看板等の設置も完了

改修の際 1F ロビーを拡張したことにより、行政からの立会い検査を実施する中で、指摘事項の改善に向けた調査を建築業者に依頼して問題があれば今後その対策を講じていく

Ⅲ－２：業界・地域社会との連携

オルガン針株式会社でのインターンシップを実施し、学生がインターンシップから就職内定を得て、28 年度から就労予定となっている

スピーチコンテストなどの各種イベントに地元自治体責任者や地元企業（八十二銀行上田支店、信越明星株式会社、わらべや日洋株式会社等）を招待し、本校の教育活動の理解を深めていただくとともに、地域社会との連携強化を図った

旅館組合の「一の宿倶楽部」と連携し、企業連携を見据えた授業展開の実施とインターンシップの実施に向けた話し合いをスタートさせた

Ⅲ－３：学生アンケートの実施状況と結果を受けた取り組み

<学生アンケートの実施状況>

実施年月日：7 月

対象：日本語学科、国際コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科
に在籍する全学生

回収率：100%

質問項目：授業や先生について
学校生活について
事務局スタッフについて
学校の環境・清掃状況について
あなたのクラスの先生について
自由形式の意見

＜前期学生アンケートの集計結果＞

総合評価		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
		81	84	78
※ 前回 (2014年度後期) 評価		80		
授業や先生について		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問7	学校カリキュラムに満足していますか？ (共通)	8.16	8.51	7.81
質問8	授業のスピードに満足していますか？ (日語)	7.98	7.98	
質問8	年間の授業数に満足していますか？ (専門)	7.44		7.44
質問9	当校で学んだことは、日常生活や進路に活かれますか？ (日語)	8.31	8.31	
質問9	進路に活かせるような専門知識が身に付きましたか？ (専門)	7.17		7.17
質問10	進路指導に満足していますか？ (共通)	7.58	7.88	7.28
質問11	先生は休み時間や授業後に質問に答えてくれますか？ (日語)	9.33	9.33	
質問11	各講師は教室で学校のルールにそって指導していますか？ (専門)	8.52		8.52
学校生活について		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問12	学校は明るく楽しい雰囲気ですか？ (共通)	8.14	8.06	8.22
質問13	課外活動を通じて見聞を広げることができますか？ (共通)	8.00	8.02	7.98
質問14	学校生活を通じて日本 (専門学校「異文化」) への理解が深まりましたか？ (共通)	7.97	8.16	7.79
質問15	ピザのサポートやアルバイト紹介など、学校のサービスに満足していますか？ (日語)	7.96	7.96	
質問15	学校のサービスに満足していますか？ (専門)	7.55		7.55
質問16	生活面に必要な情報は提供されましたか？ (共通)	8.17	8.26	8.08
事務局スタッフについて (日語・専門共通)		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問17	事務局スタッフは親切ですか？	8.89	9.10	8.68
質問18	事務局スタッフの説明は十分ですか？	8.59	8.76	8.43
質問19	事務局スタッフの対応は早いですか？	8.21	8.44	7.98
質問20	事務局スタッフは相談しやすいですか？	8.38	8.65	8.12
質問21	総じて事務局スタッフは信頼できますか？	8.49	8.77	8.21
学校の清掃状況について		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問22	教室はきれいに清掃されていますか？ (共通)	7.89	8.28	7.50
質問23	トイレはきれいに清掃されていますか？ (共通)	7.03	7.73	6.33
質問24	玄関・ロビー・廊下はきれいに清掃されていますか？ (共通)	8.49	8.86	8.12
質問25	黒板やホワイトボードはいつもきれいですか？ (日語)	9.10	9.10	
質問25	PCルームや図書室などの学校設備に満足していますか？ (専門)	7.32		7.32
質問26	総じて学校は清潔な環境ですか？ (日語)	8.49	8.49	
質問26	教室内の設備に満足していますか？ (専門)	7.53		7.53

<後期学生アンケートの集計結果>

総合評価	NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
	82	86	78

※ 前回（2015年度前期）評価 81

授業や先生について		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問7	学校カリキュラムに満足していますか？（共通）	7.83	8.47	7.18
質問8	授業のスピードに満足していますか？（日語）	8.06	8.06	
質問8	年間の授業数に満足していますか？（専門）	6.86		6.86
質問9	当校で学んだことは、日常生活や進路に活かれますか？（日語）	8.44	8.44	
質問9	進路に活かせるような専門知識が身に付きましたか？（専門）	7.07		7.07
質問10	進路指導に満足していますか？（共通）	7.73	8.03	7.43
質問11	先生は休み時間や授業後に質問に答えてくれますか？（日語）	9.23	9.23	
質問11	各講師は教室で学校のルールにそって指導していますか？（専門）	8.00		8.00

学校生活について		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問12	学校は明るく楽しい雰囲気ですか？（共通）	8.34	8.42	8.26
質問13	課外活動を通じて見聞を広げることができますか？（共通）	8.14	8.34	7.94
質問14	学校生活を通じて日本（専門学校「異文化」）への理解が深まりましたか？（共通）	8.10	8.44	7.77
質問15	ビザのサポートやアルバイト紹介など、学校のサービスに満足していますか？（日語）	8.15	8.15	
質問15	学校のサービスに満足していますか？（専門）	7.64		7.64
質問16	生活面に必要な情報は提供されましたか？（共通）	7.86	8.26	7.45

事務局スタッフについて（日語・専門共通）		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問17	事務局スタッフは親切ですか？	8.72	9.08	8.36
質問18	事務局スタッフの説明は十分ですか？	8.54	8.79	8.30
質問19	事務局スタッフの対応は早いですか？	8.50	8.79	8.21
質問20	事務局スタッフは相談しやすいですか？	8.51	8.84	8.17
質問21	総じて事務局スタッフは信頼できますか？	8.44	8.75	8.13

学校の清掃状況について		NLC (平均)	日語学科	国コミ/GB
質問22	教室はきれいに清掃されていますか？（共通）	8.40	8.86	7.94
質問23	トイレはきれいに清掃されていますか？（共通）	8.30	8.75	7.85
質問24	玄関・ロビー・廊下はきれいに清掃されていますか？（共通）	8.82	9.18	8.46
質問25	黒板やホワイトボードはいつもきれいですか？（日語）	8.81	8.81	
質問25	PCルームや図書室などの学校設備に満足していますか？（専門）	7.31		7.31
質問26	総じて学校は清潔な環境ですか？（日語）	8.99	8.99	
質問26	教室内の設備に満足していますか？（専門）	7.89		7.89

<年間> 学生満足度評価

81.5%

<結果の分析>

アンケートに答えた日本語学科の学生は日本語の習得を目標にした留学生たちである。その指導に当たる教師のすべてが日本語ネイティブによる直接法で教授されるため例年高い満足度を示している

専門学科である、国際コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科は、それぞれの専門分野の中身を学ぶことになる。そのため日本語能力はもとより専門性が求められるので学習目標のハードルが上がる。したがって学習内容の理解が不十分な学生も出てくるためか、ややアンケートの満足度が落ちる傾向がある

学生個々の修得度を把握しながら、資格取得などの結果に結び付けられる授業を展開する必要がある

事務局員による学生たち一人ひとりへの対応がタイムリーであり、適切であるためか学生たちの事務局職員に対する評価は総じて高い

また、夏休み期間に校舎を全面的に改修したことにより、前期に満足度が低かった施設面の問題も後期には改善されている

<結果を受けた取り組み>

本校の学生たちの実態に即した指導課題を明確にしていく中で、教師個々の指導力を更に高めていきたい。更に教務スタッフには「個別目標設定」を年度当初に行い、年度末に自己評価を実施している

非常勤、常勤を含めた勉強会を定期的実施してきている

グローバルビジネス学科 2 年次対応授業に関しては専門科目の教員採用と教授力強化に努めていく

Ⅲ－４：教職員研修の実施状況

常勤英語教員の神田外語大学グループの英語教授法研修会に 1 名参加

長野県専修学校各種学校連合会教員研修委員会実施のキャリアサポーター講習会 2 名参加

長野県専修学校各種学校連合会教員研修委員会実施の知的障害学生対象勉強会に 1 名参加

公益社団法人日本語教育学会日本語教師研修に 1 名参加

株式会社ウイネットアクティブラーニング研修 1 名参加

ICT 教育実践先進校への視察 3 名参加

Ⅲ－５：四半期毎の学費徴収率

※ 当期までの徴収額／当期までの徴収計画額

第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
70%	25%	3%	2%

点検・評価

日本語学科の学生に対しては本国からの送金指導をしっかりと行い、順調に学費徴収が出来ている。国際コミュニケーション学科の2年生の学費徴収については当初3分納で計画を進めている。学費の納入が計画通りにいかない学生に対しては、個別カウンセリングを重ねて、再分納計画を立て徴収してきた。グローバルビジネス学科の1年生に関しても3分納を実施し、こちらも予定通りに徴収することができた。

日本人学生については、日本学生支援機構の奨学金申請が増えている。更に学生の生活状態を把握しながらケアを進めていく。

Ⅲ－６：学習環境の整備

夏休みを利用して校舎全館の内装リニューアルを実施

平成28年度から導入するICT教育・アクティブラーニングの実施に向けて年度末に電子黒板を10教室に設置する

PC教室の2教室をアクティブラーニング用の椅子と机に入れ替え

PC教室に固定プロジェクター2台を設置する

デスクトップPCからノートPCに設備を入れ替え。ノートPC43台を新規導入

アクティブラーニング用のタブレットPCを25台導入する

Ⅲ－７：学生生活への支援

就職情報センターを「キャリアサポートセンター」として再構築。学生の就職支援と進学支援の両方を総合的に組織化してサポートする体制を導入していく

平成28年度に向けた取り組みの方向性

基準Ⅰ：教育目標について

- ・教育目標は平成27年度に準ずる
- ・各学科、クラスでのICT教育・ICT授業を導入する

基準Ⅱ：教育方法・内容について

- ・平成27年度に準ずる
- ・ICT機材新規導入の勉強会を定期的に実施
- ・電子黒板・書画カメラを効果的に利用し、学生の習熟度向上を図る

基準Ⅲ：学校運営について

- ・担任・副担任制を導入し、学生管理の徹底と情報共有を図る
- ・新人教師、非常勤講師の教育を充実させ、教授力向上に努める
- ・ICT機材の有効活用
- ・ホームルームの時間を位置づけ、学級運営と生活指導の大切な場とする

以上

専門学校長野外语カレッジ自己点検・自己評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、専門学校長野外语カレッジ（以下「学校」とする）が、学校教育法第133条の規定により、自己点検・自己評価を実施することに関し必要な事項を定めるものとする

(委員会の設置)

第2条 学校が自己点検・自己評価を実施するため、学校評価委員会（以下「委員会」とする）を設置する

(構成)

第3条 委員会は、学校長以下、常勤の全教職員をもって構成する

(委員会)

第4条 委員会は事務局長が招集し、その議長となる

2 委員会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する

3 委員会には事務局長が必要と認める構成員以外の者を出席させることができる

第5条 委員会は、原則として年1回以上開催する

第6条 自己点検・評価の対象は次のとおりとする

- (1) 教育目標
- (2) 教育方法・内容
- (3) 学校運営

第7条 委員会の議事は、構成員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる

(議事録)

第8条 委員会を開催したときは、議事録を作成するものとする

附則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する

専門学校長野外语カレッジの自己点検・自己評価の実施について

1 根拠

学校教育法第133条の規定を受け、本校において「自己点検・自己評価を実施要綱」を定めて実施する

2 実施主体

実施要綱で「学校評価委員会」の設置を定め、委員会が実施主体としてこれを実施する

3 委員会の構成員

他の専門学校の例に倣い、事務局長を委員長として、以下常勤の全教職員で構成する

4 点検・評価項目

文部科学省が発行する「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考とし、「教育目標」「教育方法・内容」「学校運営」の3つの基準に沿って点検・評価をおこなう

5 評価報告書の公表に至る経過

自己評価報告書については、学校長決済とし、決済後、本校の設置者である学校法人 ISI 学園及び ISI グループ本部へ提出し公表する